

平成30年度 秋田県立大館鳳鳴高等学校 3学年地理歴史科シラバス

地理 B

I 学習の到達目標

1. 自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等の事象を通して現代世界の特色を系統地理的に考察する。
2. 現代世界を地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)のスケールをふまえながら地誌的に考察する。
3. 現代世界の諸課題(国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題)の現状と背景を理解し、解決策を探る。
4. 地理という科目が世界をとらえるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え自分の意見を言える力を身に付ける。

使用教科書・副教材等：新詳地理B(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院)、2017地理統計要覧(二宮)、新編地理資料2017(とうほう)

月	学習内容	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
4	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 Ⅱ-2-7 世界を結ぶ交通・通信 Ⅱ-2-8 現代世界の貿易と経済圏	・世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達に関する考察を基に、交通・通信や情報の一体化と地域差に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達によって、交通・通信や情報が一体化する一方で地域差も生じていることを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・各種交通の運行状況やインターネットなど通信の普及に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、世界を結ぶ交通・通信について読み取ったり図表などにまとめている。	・交通や通信の発達の状況や一体化の進行、地域差の拡大について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。
5	Ⅱ-3 人口、村落・都市 Ⅱ-3-1 世界の人口 Ⅱ-3-2 人口問題 Ⅱ-3-3 村落と都市	・人口問題を自分たちの生活、将来にも関わる身近な問題としてとらえ、関心が高まっている。 ・村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能、日本の都市の特徴に関する考察を基に、村落や都市に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・世界の人口の分布や動態を地球的視野から理解し、人口問題の地域的な差異が経済の発達と大きく関わっていることを理解することで、その解決方法を考察している。 ・村落と都市について、集落はどのように発生し、どのように都市として発達したか、都市はどのような機能を持ち、構造はどうか、日本の都市の特徴は何かを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・日本における人口問題を地域の統計や資料を調査し、表にまとめ、分析を行っている。 ・都市の人口や分布、都市の地域構造に関する統計や地図などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、村落と都市について読み取ったり図表などにまとめている。	・人口問題の深刻な地域を把握している。 ・人口の変動によって生じる課題について理解している。 ・村落と都市の立地、発達、機能や日本の都市の特徴について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。
6	Ⅱ-3-4 都市・居住問題 Ⅱ-4 生活文化、民族・宗教 Ⅱ-4-1 世界の衣食住 【前期中間考査】	・都市・居住問題について、発展途上国、先進国、日本に関する考察を基に、都市・居住問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・世界の生活文化について、地域の差異と画一化に関する考察を基に、世界の生活文化に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・都市・居住問題について、世界の都市・居住問題の要因と発生のかきみや都市・居住問題の解決には何が必要かを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・世界の生活文化について、さまざまな衣食住の地域的差異の背景、世界と日本の衣食住の変化と世界的な画一化の要因を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、過程や結果を適切に表現している。	・発展途上国、先進国、日本の都市・居住問題に関する統計や事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、都市・居住問題について読み取ったり図表などにまとめている。 ・世界の衣食住の写真や巨大企業の海外進出のデータなどの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、生活文化の地域的差異や画一化について読み取ったり図表などにまとめている。	・発展途上国、先進国、日本の都市・居住問題の特徴や、解決への道筋について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・衣食住の分布や地域的差異の特徴や画一化の進行について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。
7	Ⅱ-4-2 民族と宗教 Ⅱ-4-3 現代世界の国家 Ⅱ-3-4 民族・領土問題	・民族・宗教について、民族・宗教とは何か、生活とどのように関わっているかに関する考察を基に、民族と宗教に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・現代世界の国家について、領域・国境やさまざまな国家に関する考察を基に、現代世界の国家に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・現代世界の民族・領土問題について、言語・宗教をめぐる問題、領土をめぐる問題に関する考察を基に、現代世界の民族・領土問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・現代世界の民族・領土問題について、世界各地や日本の事例を取り上げ、問題が起こる背景や、これを解決して民族が共生するための方策を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・現代世界の民族・領土問題について、世界各地や日本の事例を取り上げ、問題が起こる背景や、これを解決して民族が共生するための方策を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・世界各地でおこっている民族・宗教や領土に関する紛争のデータや事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、現代世界の民族・領土問題について読み取ったり図表などにまとめている。 ・領域・国境やさまざまな国家に関するデータなどの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、現代世界の民族・領土問題について読み取ったり図表などにまとめている。	・世界の言語分布や宗教の特徴、生活との関わりについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・国境と領域のきまり、さまざまな国家の分類について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・世界各地の民族・宗教や領土に関する問題を整理し、多文化共生の事例について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。
8	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 Ⅲ-1-1 現代世界の地域区分	・地域区分とは何かについて、地域概念や地域区分の目的、意義の理解を基に、地域区分とは何かに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・地域区分とは何かについて、地域とは何か、どのような視点や方法で区分できるか、地域区分することの意義や有用性を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・地域区分の方法や統計地図の作成に関する諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、地域区分とは何かについて読み取ったり図表などにまとめている。	・地域にはどのような概念があるか、地域区分にはどのような方法があるかを理解し、その知識を身に付けている。
9	Ⅲ-2-2 東アジア Ⅲ-2-3 東南アジア Ⅲ-2-4 南アジア 【前期期末考査】	・自然や文化などの多様性を生み出すものは何か関心を持っている。	・世界の地域の特色を総合的に把握する方法について考察している。	・世界の地域的特色を様々な項目ごとに図化し、わかりやすく処理している。	・自然や文化などの多様性に着目して、規模に応じて世界の地域的特色をとらえ、知識を身に付けている。
	Ⅲ-2-5 西アジアと中央アジア	・自然や文化などの多様性を生み出すものは何か関心を持っている。	・世界の地域の特色を総合的に把握する方法について考察している。	・世界の地域的特色を様々な項目ごとに図化し、わかりやすく処理している。	・自然や文化などの多様性に着目して、規模に応じて世界の地域的特色をとらえ、知識を身に付けている。

10	Ⅲ-2-6 北アフリカと サハラ以南のアフリ カ Ⅲ-2-7 ヨーロッパ Ⅲ-2-8 ロシア				
11	Ⅲ-2-9 アングロアメリカ Ⅲ-2-10 ラテンアメリカ Ⅲ-2-11 オセアニア 【後期中間考査】				
12 ~ 3	センター試験対策 私大、国公立2次試 験対策	問題に意欲的に問題に取り組もう としている。	問題を解くのに必要な知識を選 び出すことができる。	統計や、グラフの読み取り練習に 意欲的に取り組んでいる。	センター試験過去問の自己採点 で、センター試験目標点数の9割 に到達している。 2次・私大の合格ラインまで達して いる。

評価方法: 前・後期共通

・考査および提出物や実力テストによる総合評価。

・評価は、社会的事象への「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」の4つを単
元ごとに行う。「関心・意欲・態度」は、授業の様子や発問に対する返答等から、「思考・判断・表現」は、各テストや授業の
様子、資料の読み取りから、「資料・活用の技能・表現」および「知識・理解」は各テストや授業の様子から総合的に評価
する。